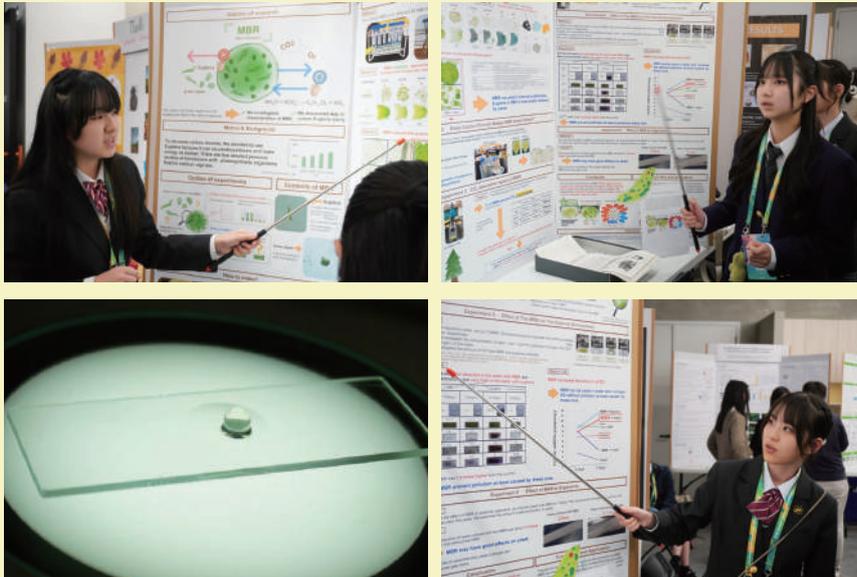


今号の紙面お囀り (5pへ)

飯山高校自然科学部が快挙！
MBRが世界一の栄冠に輝く



2025/1/18～25 台湾で開催のTISFで、飯山高校自然科学部のMBRが一位に発表ブースで説明する 藤澤さん(上段左) 大塚さん(同右) 高藤さん(下段右) そして、MBR(ミドリ・バイオ・リアクター)(下段左) 詳しくは5pへ

教文通信

発行所
長野県教育文化会議
発行人
寺尾 真純

今号の記事

- 01-04 第5回総合研究会 報告(後編) 授業づくりを考える総合研究会 04
- 「Plant」に研修履歴を記録 05-07
- 飯山高校自然科学部が快挙！ TISFで世界一 07-08
- 職場教研続々と！ 08
- 書籍紹介「先生、お元気ですか」

第5回総合研究会(1月11日) 後編 授業づくりを考える総合研究会報告

可欠とされ、誰一人取り残すことのない個別最適化された学びのために教育のデジタル化を一層推進していくことを大きな特徴としている。しかし、内閣府主導のもと経済産業省・文科省による新しい時代を想定した教育は、統制され画一化された授業(教育)を目指すものであり、教育の貧困化をもたらしていくものである。



1 学習指導要領の改訂
昨年度末に、次期学習指導要領改訂に向けた検討が中教審に諮問された。そこでは改訂における4つの課題が示されたが、それらは学習指導要領を具体的にどのようを活用していくのかという事に主眼が置かれている。また、「子ども主体の学び」をスローガンに教育課程の多様化が求められているが、多様な子どもたちとは外国籍や障がいなどによる学習支援の場合だけでなく、特異な才能のある児童生徒の支援も課題とされている。そして、こうした多様化に対応する教育課程を編成していくためにはAIを活用し、個々の子どもの学習データを集積し分析することが必要不可欠とされ、誰一人取り残すことのない個別最適化された学びのために教育のデジタル化を一層推進していくことを大きな特徴としている。しかし、内閣府主導のもと経済産業省・文科省による新しい時代を想定した教育は、統制され画一化された授業(教育)を目指すものであり、教育の貧困化をもたらしていくものである。

講演
「20世紀と21世紀の
授業の画一化・貧困化を反転する」
子安 潤さん(愛知教育大学名誉教授)

2025年度 **キャリアアップ研修Ⅲ**対象となっている皆さん

教文会議の「総合研究会」各研究会主催の「全県研究会」は、**校外研修B**の対象です。

⇒ 学校長判断によりますが、出張扱いとなり、旅費支給も可能です。

キャリアアップ研修Ⅲ対象以外の皆さんも「Plant」で、一般研修として記録可！ (4p参照)

2 授業を画一化させる従来の基本構造

授業を画一化させる従来の基本構造として、奈良教育大学附属小学校の問題からも見えてくるように、教育関係者や文科省等行政などによる思い込みや誤謬が要因となっていることがあげられる。旭川学力テスト最高裁判決により学習指導要領は大綱基準であり法的拘束力を持つものではないとされており、むしろ学習指導要領は「学校の教育課程は学校が編成する」とある。また、教科書使用義務は、教科書の内容通りに実施しなければならぬということではない。本当は規定されていないことまでも規定されているかのよう思い込み、他と同じことをしていないのは不適切であると誤った判断をするのは、教育（授業）を画一化させ貧困化を招いていく構造的要因となっている。また、高校においては大学入試に沿った内容が求められる、学校の階層化に対応して授業も階層化の色彩を強めている。特に小学校における研修制度では、どのような授業が基本形であるのか、そうした基準が地域ごと、教科ごとにある。さらに小中の教科書採択が地域単位となっている特異な国家であるため、教師の教材選択権が狭い。世界の小中学校の教科書採択権（教科書研究センター 2020年）によると、教科書使用義務があるのは日本・韓国・インドの一部州のみである。また、採択権限は学校や校長・教師である場合がほとんどであるが、日本は教育委員会、中国は地方政府となっており、中国と並んで日本は国家からの統制が強い。

3 21世紀の授業の画一化・貧困化システム

21世紀になり教育基本法が改訂され、教育スタンダードが設定されたことにより、授業の画一化・貧困化が一層加速している。教員研修では、授業をどうするのかという内容と、どのような教員をつくるのかということが併せて行われるようになってきている。「授業の始まりに毎時間の目標を示す」という実践が奨励されているが、教科書には単元ごとの課題や何をどのように学習していくのか細かく記されており、授業内容の進捗が教科書によってほぼ決められている状況になっている。これは、2008年の教科用図書検定調査審議会によって、教材を中心とした教科書の記述から子どもが自分一人でも勉強できるように学習活動を示唆する構成へと教科書を改善することが示されたことによるものである。また、教育のICT化によってデジタルコンテンツが導入されている。特に英語の英会話では音声を利用して練習できるため多用されており、小中の使用頻度も高くなっている。児童生徒は教科書が無償なので紙のものが配布されるが、教員にはデジタル教科書があてがわれるが、デジタル教科書の問題点として、QRコードによるリンク先があることで、教員が教材を自ら探すがなくなり、ほぼ同じような教材をどこでも使用して授業をするようになった。また、教師用のプリントのデータもあり、働き方改革の呼びかけの下、教師自らプリントを作成することもなくなり、生徒のタブレットにプリ

ントを送り、授業準備として印刷物も作成しない状況となっている。

4 教育のICT化・デジタルコンテンツの問題

内閣府に設置されている総合技術・イノベーション会議で示されたSociety5.0、これは日本独自の概念であるが、この実現のための教育・人材育成政策のキーワードは、多様化・多様性である。それは、「well-being（多様な幸せ）」の実現のためとしている。ここでは、経済格差や社会格差、様々な困難を抱える子どもたちの問題を解消していくことを可能にするものがデジタル技術であり、最大限活用していくことを強く推奨している。従来の教室での学びを一斉授業と表現し、それはこれからの新しいイノベーションの創造を生み出さないものとし、タブレットを使用し業者のアプリによる個別最適の学びこそが、これからの教育であるとしている。しかし、歴史を振り返れば、江戸時代の身分の高い武家の子どもたちには専属の教育係がつけられ個別に学習していたが、それ以外の下々の者は寺小屋で一斉に勉強していた。多様性を重視する個別最適な学習は、実際には学ぶ内容に差ができてしまい、教育格差が拡大していく危険性があるのではないか。特に小学生など低学年の子どもたちにとっては、自分が何を学ぶべきであるのか分からない場合が多い。今、小中学校では自由進度学習が流行っている。愛知県内の緒川小学校の取り組みが有名であるが、全体の学習の一割程度を自由進度学習としている。自

由進度学習では、できなかった所を振り返りながら、学習の仕方を自分で決めていく自己調整学習が必要とされるが、ここでの学習課題は教科書に示されているものを子どもたちが学んでいる場合がほとんどであり、何を学ぶのかという課題の内容は予め決められていることが多い。中には、教科書にない課題を取り入れている学校もあるが、少数である。この自由進度学習によく似た学習を行っている企業がある。それが公文式学習である。単元ごとのプリントを各自で取り組み、一定の点数がとれたら次へ進むという方法である。自由進度学習といっているが、学習内容は教科書通りであり、画一化されており、決められた内容に取り組むだけの貧困化した学習が行われている。つまり、教科書に課題が設定され、次に何をするか書かれているので、学んでいく中で生まれてくる疑問が子どもたちから出てくることがない。

また、ICTを活用したタブレットの学習では、スタディサプリなどの練習問題付きのアプリケーションを使って学習しているが、ここでは四択問題が多く、教員は子どもたちがどのように解答を導いているのか途中経過はわからず、結果のみが提示される。さらに、個々の意見や解答はタブレット上に一斉に開示されるので、コミュニケーションすることが必然的に減り、尚且つチャットなどのコメントは短い言葉でやりとりするので、子どもたちの表現力が低下している。ベネッセによる小中学校のアンケートによると、タブレットの利用方法として多いのが「授業に必要な資料をインターネットで調べる」という項目である。授

業中にインターネットで検索するという活動であるが、生徒は先生の示した課題をそのまま入力すると答えが出てくるので、考える必要がなくなる。また、学習に関係のない検索をしてしまうことがよく見られ、注意散漫となり学力低下を招く原因となっている。こうした理由によりスウェーデンではタブレット利用を廃止する方向になった。デジタル技術を教育で使う場合、教える側は、デジタル教科書やアプリによって画一化した授業となり、プリントも用意されて手軽で便利になり、自分で工夫したり考える必要がなくなる。学ぶ側も同様に、検索することで終わってしまい、自分で考えなくてもよくなる。義務教育では毎時間1回はタブレットを使用するようにすすめている市町村があり、地域学習にタブレットを持参する場合が多くなっているが、子どもたちは、調査やインタビューの内容よりも写真や動画を撮ることに夢中になってしまい、調査学習よりも単なるカメラマンになっている現状がある。

デジタル技術の最先端であるAIなどに使われている深層学習（ニューラルネットワーク）は、大量のデータ情報によって確率的に高いものを選んでいるだけのものであり、従ってデータの無いものには対応することはできず、なぜその解答になるのか説明することは不可能である。また、データの中に差別的な内容が入ると、そこから出された結果は公平性が担保されないものが提示される。つまり、データ攻撃によって偏りのある情報が多く送りつけられると確率で処理されていくので、事実ではないことや誤った情報がまかり通ること

になる。生成AIは考えて応答しているのではなく、確率的に選ばれたものを提示しているだけにすぎない。一人ひとりの生徒の状況を見て適切なものを判断していくことができるのは、人間である教師だけである。デジタル教材は簡単便利で、多忙化している教員にとって頼りたくなるものではあるが、それはデータの寄せ集めからできた世界であり事実や真実をもとにつくられているものではないことを認識していなければならない。

5 授業の画一化に挑む

デジタル教材によって加速する授業の画一化・貧困化を打破していくためには、前提として学習指導要領には細部まで法的拘束力はなく、教科書使用にも本当は自由があり、むしろ学習指導要領は学校と教師に創造的な教育を求めていることを現場の教職員が認識していることが重要である。そして、デジタル教材は本物を提示することができない（情報の縮減）、だからネット検索ではなく実地調査を行うことや、本物の教材によって人間の持つ多くの外部感覚を刺激する学習を目標していくことが必要とされる。オンラインではなくリアルな対話や討論を通して、子どもの声や疑問を聴いてそれに対応する授業（タクト論）を目指していくこと、つまりデ



デジタル優先の教育から、リアルな教えと学びを優先させていくことにより、教育の画一化に挑むことができるのである。そのためには、教師の専門職性としての教材選択権などの保障や教育におけるログの廃棄（子どもや教師の個人情報保護）の法的規制を追求する必要がある。

実践報告

「文学国語」（高校2年生）の授業から
～定番教材「こころ」の授業～

牧内淳一（長野東）

長野東高校では「文学国語」は2・3年生で3単位履修する。現行の学習指導要領では「文学国語」は選択科目となったので扱っていない高校もある。文学を授業で扱う時には、人と人が迷うのは他者との関わりの中で考えたり行動したり、互いに影響し合っていることを意識して読むことを生徒に伝えている。これまでの授業では一方的に読み方を指導してきたが、いろいろな読み方があったもよいのではないかと考え、グループ内で意見交流をすることによって読みを深めて行く授業を計画した。

事前に語句調べなどを行い各自で読む学習を行い、その後グループでテーマを考えて設定し、それに沿って読み、自由に話し合っ意見をもとめ、スライドを使って発表する流れで授業を構成した。スライドは探求学習で使っているので、そのノウハウを活かして使用することを勧めた。全

体で5時間の授業となった。1つ大切な条件として、本文の記述を根拠に読むことを提示した。しかし、苦手な生徒も多く、必ずしも条件に従って読むことができたわけではなかった。特にしっかりと話し合いができたグループでは、注目する観点を明確にし、本文のどこから読み取っているのかわかるようにスライドをまとめ、Kの自殺の原因を失恋や先生の裏切りとするだけでなく、信念が折れてしまった自分が許せなかったという深い読みができていた。

授業の振り返りアンケートからは、グループ学

習によって理解や読みが深めることができ、他の人の意見をきくことができているという感想が多く、一方的な説明をした授業よりも生徒の反応があり、学習を深めることができていることが明らかになった。テーマを自分たちで設定することに意味があると考えられ、今後も、グループ学習を継続していきたい。課題として、インターネットで検索したままの文章があったり、前後の事実関係や要因を無視して結論つけている場合があるので改善できるように指導していきたい。

常任委員 田澤秀子

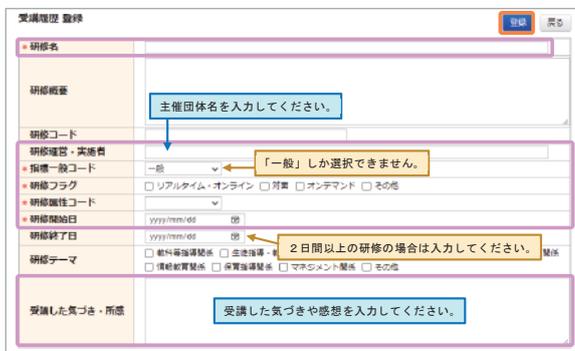
2 総合教育センター研修以外の受講履歴登録

Plantに登録されていない研修（授業研究会、校内研修等）の受講履歴を登録することができます。

① 受講履歴登録 から、「受講履歴追加」をクリックします。



② 受講した研修・研究会等の情報（ピンク枠で囲まれた項目）を入力し、「登録」をクリックしてください。



③ 画面上部に下図のような表示が出ます。よろしければ「OK」をクリックします。



④ 受講履歴登録一覧に戻り、登録した研修が一覧表内に表示されます。



「総合研究会」「全県研究会」を「Plant」で受講履歴登録する

- ① 「受講履歴登録」から「受講履歴追加」をクリック
- ② 主催団体は「〇〇総合研究会」「〇〇全県研究会」と入力
- ③ 「一般」「期日」「気づきや感想」を選択、入力、登録で終了

飯山高校自然科学部が快挙！ Taiwan International Science Fair 2025で栄冠

MBR (ミドリ・バイオ・リアクター) は地球を救う!!

飯山高校自然科学部

大塚結愛 高藤陽菜果 藤澤佳美
指導者 中村英

◆はじめに

令和7年1月18日(土) 26日(日)に台湾・台北で開催された科学研究の世界大会 Taiwan International Science Fair: TISF 2025において、自然科学部 MBR 班が一等賞 (First Award) を受賞し世界一に輝きました。1年生の時に、ミニ課題研究で調べたミドリムシがきっかけで、2年生の4月に研究を始めた彼女たち。6月ごろ「この大会、私たち出れますか?」と、高校化学グラウンドコンテストのチラシを持ってきたのがきっかけでした。9月に一次審査(論文審査)の結果が届き、全国99チームの中から上位10チームに選ばれ、最終選考会(口頭発表)に進めることになりました。これ以降も研究に没頭し、発表も徹夜で完成させるなど究極を追い求めました。そして、10月芝浦工業大学(東京都)で開催された最終選考会で全国2位の化学未来賞を受賞し、TISF 2025に出場すること



一等賞!

が決まりました。TISFは国立台湾科学教育センターが毎年開催する台湾最高峰の科学研究コンペティションで、今年は過去最多30カ国から計234チームの参加がありました。事前に航空券手配、エントリー、アンケート、英語論文 Summary、研究紹介動画、同意書提出などたくさんやること(もちろんすべて英語)があつても大変でした。それに加えて、韓国での発表、日本学生科学賞最終審査、全国総文祭県予選、SBC学校科学大賞最終報告、テレビ局、新聞社の取材対応などハードスケジュールを力強く乗り越えていきました。

自然科学部顧問 中村 英

◆MBR (ミドリ・バイオ・リアクター)

私たちは、二酸化炭素を吸収できるボール MBR を開発しました。MBR はアルギン酸カルシウムのビーズの中にミドリムシや緑藻類など光合成できる生物を閉じ込めたものです。これまで30種類以上の溶液で MBR を培養し、MBR



の培養特性を調べました。その中で、ドライイーストが最も効率的に MBR を培養できることを発見しました。これが研究の大きなブレイクスルーとなりました。MBR は光を当てると、二酸化炭素を吸収しますが、MBR の方がミドリムシそのままを使うよりも、二酸化炭素吸収速度が高いこともわかりました。MBR を入れた水槽の水質調査を行い、水中の酸素濃度が高まることや水質汚染の心配が少ないことも確かめました。よって MBR は川など自然界でも利用も期待できます。今後は、MBR で増殖した生物からバイオ燃料などの有用成分を抽出できるか研究を行いたいです。

◆10泊11日TISF 体験記

TISFでの発表ももちろん、すべて英語です。発表準備は国内で完璧にできた! というわけではなく、ポスターは飯山出発の前日に、原稿はなんと発表の前日に最終盤が出来上がりました。何



TISF 開会式

度も修正を繰り返して、自分たちの納得のいくまで直しました。ついに発表初日 (1st Judge)、発表会場には生徒しか入ることができず、スマホの使用は禁止で、水すら持ち込むことができませんでした。審査員がいつ来るかわからない状況の中で、1時間以上立ちっぱなしで待ちました。足が痛くて、ああ、そろそろ座りたい! と思ったとき私達

の番が来ました。その時はとても緊張しましたが、10分間のプレゼンテーションの後、審査員の方がグッドアイデアと褒めてくださり、頑張つて発表の準備をして良かったなと思いました。発表が終わったあと、スタバでくつろぐ先生のもとへいくと、なんと「るるぶ」を読んでいる、今日の夜はどこどこに行こうと、話しかけてきます。「先生、こういう時は、発表どうだった？って、聞くんですよ？」とすかさずツツコミ。発表2日目(Sunday Judge)は昨日よりも多い10人以上の審査員が来てくれました。即興でショートバージョンの発表をして、質問が聞き取れない事件もなんとかみんな協力して乗り切ることができました。

大会期間中には発表以外にもさまざまなプログラム(カルチャーツアー、サイエンスツアー、ワークショップ等)が用意され、世界中の人々と交流を深めました。24日に行われたカルチャーナイトでは各国が発表や屋台で自分の国の音楽やダンス、文化体験を披露しました。日本代表の飯山高校と仙台第三高校は生徒&教員がチームJAPANとして



カルチャーナイト



力を合わせて書道体験できる屋台を出しました。準備の時間からすでにイタリア、ロシアなど多くの人が殺到し、大人気でした。人気投票の結果、Best Cultural Booth 2位！に選ばれ表彰されました。

◆世界大会に参加して

9日間という長期間の海外滞在や英語での発表に不安なまま飛行機に飛び乗りましたが、たくさんの方々と交流し英語で会話していくうちに、この貴重な機会を楽しんで過ごしたい！という気持ちになり、充実した時間を過ごすことが出来ました。英語での発表では、自分たちの伝えたいことがどうしたら上手く伝わるのかを考え、準備を重ねてきたため、緊張はありましたが、自信を持って発表を行うことができました。そして、1位という結果を得たときの喜びは今でも忘れられないです。この結果を誇りに思うことはもちろん、これまでの努力や探究心を忘れず今後の研究や自分の生活にも活かして行きたいと思えます(大塚)。



発表ブース

備は論文やポスターなどとても大変でしたが、努力が報われ1位という結果を得ることができとても嬉しかったです。また、私は自分から話しかけるのが得意ではないのですが、どの国の方も嬉しそうに話してくれて、自分から積極的に話しかけることができ、とても自分の成長になったと感じています。出発する前は海外での親元を離れた長期滞在にとても不安を感じていましたが、仲間や先生、現地の方々の親切なサポートのおかげでも充実した日々を過ごすことができました。ここまで私達をサポートしてくださったすべての方々に心から感謝しています(高藤)。

私にとって、初めての英語での海外発表ということでも緊張していましたが、本番は自信を持って発表することができました。発表までの準備は論文やポスターなどとても大変でしたが、努力が報われ1位という結果を得ることができとても嬉しかったです。また、私は自分から話しかけるのが得意ではないのですが、どの国の方も嬉しそうに話してくれて、自分から積極的に話しかけることができ、とても自分の成長になったと感じています。出発する前は海外での親元を離れた長期滞在にとても不安を感じていましたが、仲間や先生、現地の方々の親切なサポートのおかげでも充実した日々を過ごすことができました。ここまで私達をサポートしてくださったすべての方々に心から感謝しています(高藤)。

今までたくさんの方々のコンテストに出場してきましたが、1位という結果を得られたのはTISFが初めてなので今でも実感が湧かないほど嬉しいです。さらに英語での発表や質疑応答に加えて海外の方との交流をする場が多くありました。私は元々英語が得意ではないので国際交流の場には少し抵抗がありました。実際に大会の中でも英語をうまく聞き取れなかったり、伝わらないことが多くありましたが、自分から話しか



自分の名前を発見

けたり、質問に答えたりしたことで自分が思っていた以上に大勢の方と交流でき、充実した9日間を過ごすことができました。更に、もつと英語を頑張ろうというモチベーションにもなるとてもいい機会になりました(藤澤)。

◆研究活動全体を通して考えたこと

今までここまで何か一つのことには打ち込み、自分からこんなにも積極的に努力を行うという経験は無かったため、このような経験をさせてくれた仲間や支えてくださった沢山の方々には感謝しかありません。研究を始めた春からこれまでの約1年間の間で本当に沢山のことがありましたが、大会に出て賞を頂いて嬉しさでいっぱいになったとき、忙しさや重圧で挫折しそうになったとき、どんなときでもこの2人が居てくれたから乗り越えられたのだと強く思っています。また、長年自分が意識していた環境問題に自分たちの研究が貢献できたかもしれないという事実が本当に嬉しさと達成感でいっぱいです(大塚)。

私はもともと緊張しやすく、人前に立って発表するのが苦手でしたが、この研究活動を通して、自信を持って発表することができるようになりました。複数のコンテストに出たので、論文やスライドの締切日が迫り、同時進行でやらなくてはならず、とても大変でやめたくなくなることもありましたが、みんなで支え合いながら諦めずに乗り越えてとても良かったと思います。また、こんなにも一つのことを熱中したことがなかったので、そのきっかけをくれた友達や高校にとっても感謝しています(高藤)。

ます(高藤)。

私はこの2人と同じチームだったからこそこの研究に熱中することができたと思っています。2人の手厚いサポートのおかげで期限内に準備を進めることができましたし、研究を少しでも良くしようとして3人で自分の意見を出し合ってきたことで自分たちの納得のいく発表にでき、もつと頑張ろうと思いつながりながら研究をすることができました。探究科は先生方や同級生など一緒に研究し応援してくれる方々のおかげで、研究が思う存分できる環境が作り上げられています。私はそんな環境で研究ができる探究科に入ってよかったです(藤澤)。

◆おわりに

11日間続いた長いTISF生活が終わり、日常生活(学校)が始まりました。全身がだるく疲れがどっと押し寄せてきます。登校した生徒から驚く一言、「今日って、実験してもいいですか?」・・・こたえはもちろん「イエス!」。彼女たちのブルーオーシャンは止まらない! 自分にはできないと思うことをやってみよう。そのことがブルーオーシャンだから。



中野立志館高校

「総合学科の中の農業授業～中野新校において農業の授業を取り入れることができるのか?～」をテーマに、3年間の植物バイテクの授業の取り組み内容を共有し、中野新校、総合学科の農業科目について、考える材料とした。

教育課程未定の中、必要な施設などを誰が検討するのかなど、今後検討すべき課題がまとめられた。

職場教研

中野立志館高校 総合学科 3年

植物バイオテクノロジー

2単位 14実習 (25時間)

- 1 植物の観察 (1時間)
- 2 細胞分裂の観察 (1.5時間)
- 3 マンゴーの挿木 (1.5時間)
- 4 空中中の微生物 (2時間)
- 5 無菌操作とランニング (2時間)
- 6 きのこの花弁培養 (3時間)
- 7 pH (1時間)
- 8 培養を作ろう (2時間)
- 9 実体培養の観察 (1時間)
- 10 菌落培養実習 (3時間)
- 11 遺伝子組み換え実習 (3時間)
- 12 多量培養実習 (2時間)
- 13 ランニング実習 (2時間)
- 14 バイオマス中の微生物 (1時間)

植物バイオテクノロジーとは
生物・植物の持つ機能を有効に活用し、食品、化粧品、バイオ燃料の生産に貢献し、環境にやさしい社会を実現するための技術です。

ごあいさつ

植物バイオテクノロジーは、生物の持つ機能を有効に活用し、食品、化粧品、バイオ燃料の生産に貢献し、環境にやさしい社会を実現するための技術です。

キクの花弁培養

- 1 スーパーで販売されているキクの花弁を採取し、消毒処理を行います。
- 2 採取した花弁を培養液に浸し、培養を行います。
- 3 培養液の中で花弁が分裂し、新しい花弁が育ちます。
- 4 育った花弁を採取し、観察を行います。

植物培養 (クローンを作る)
植物の一部 (葉・花びら) を取り出し、培養液の中で育てると、同じような植物が育ちます。

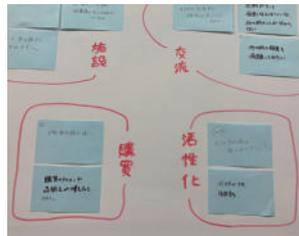
実験成功、光栄大感謝!

植物バイオテクノロジーは、生物の持つ機能を有効に活用し、食品、化粧品、バイオ燃料の生産に貢献し、環境にやさしい社会を実現するための技術です。

職場教研 続々と開催!

「総合的な探究の時間」についての研修会。1年次「探究の日」のグループワークを実際に行い、気づいたことを出し合っ
て探究的な学びについての考
えを共有。来年度は生徒も交
えた交流の機会を計画したい。

木曽青峰高校



ソルガムってご存じですか？
辰野町の魅力を再発見

Sorghum Cooking Class

ソルガム 料理教室

2025 2/28 (金) 辰野高校 調理室
15:00~17:00

ソルガムをご存知ですか？辰野町が産み出す力強い食糧です。料理を通して辰野町の魅力を再発見してみませんか？テスト高野の卒業にむけて、毎時間の参加も大歓迎ですので、ぜひ参加ください！

講師：木建 崇 辰野高校 辰野町農産物振興局/ベンコンロリ合同会社代表
修業中・実習生に取り組みられている地域の農家さんら。現場から学んでいただく機会を大切に、お話をしながら楽しく学びます。食料の循環ロスを減らす取り組みもご紹介します。

メニューは当日のお楽しみです。お持ち帰り容器は各自で準備してください。

【研修料】 無料です
【参加費】 無料です
【持ち物】 エプロン、三角巾、マスク

申し込みはQRコードからお願いします。 連絡 武井

辰野高校

ソルガム料理教室・・・辰野町が力を入れている、ソルガムの魅力を味わった。

阿南高校

学習面で課題を抱える生徒が多いことから文章の書き方などについて学校設定科目などで取り組んでいる。進路指導に向け2年次後半から小論文などの指導を始め、3年次には多くの教員が各生徒の担当として、履歴書、志望理由書、小論文の添削を行っている。今回の研修では、本校教員が共通で修得しておきたい添削指導について学んだ。



本部書記局

本部書記局も教文会議の一つの職場単位になっている。ノーベル平和賞を受賞した日本被団協の事務室長、工藤雅子さんの出身が飯田市というご縁から、活動の中で考えたこと、ノーベル平和賞受賞のことなどについて on-line でお話を聴いた。工藤さんは、「受任論」の欺瞞、被爆者運動の思想と運動を学んだ者が運動の当事者となることの重要性などについても厳しく指摘された。支部教研や職場教研にお勧めである。



HOUTAMA Toshihiro
朴山 稔仁

先生、お元気ですか

学び合うとは
ともに
変わることに
教師はその背中で
何を語れるか

—教え子からの手紙は
教師の実践に対する通知表

文芸社◇定価(本体1,000円+税)

書籍紹介

朴山稔仁著「先生、お元気ですか」(文芸社刊)
「30年に及ぶ教員生活の中の、地域も学校も時代も異なるエピソード。エピソードはほとんど実話に基づく。掲載した手紙は実物をもとに若干の変更を加えただけだ。登場人物は特定の生徒や教員ではなく、共通点を持つ幾人かを継ぎはぎしてひねり出した。この物語は手紙を書いてくれた人との共著だ。『エピソードに思い当たる節がある方はご連絡ください。久しぶりに酒を飲み思い出話をしましょう。』(エピローグより(部分))
ところで、朴山稔仁って、いったい誰かって？ みなさんよくご存じの、教文会員 OB 丸山武志氏です。彼につながる人もそうでない人も、ぜひご一読あれ。